

## 令和元年度 第2回がまごおり協働まちづくり会議議事要旨

日時 令和元年8月21日(金)  
午後1時30分～午後3時15分  
場所 蒲郡市役所新館6階601会議室

### 1 開会

事務局より配布資料の確認、  
遅刻者と欠席者の報告

### 2 議題

#### (1) 令和元年度第1回議事要旨の確認について

- 第1回議事要旨について事務局より説明  
→特に意見もなく承認された

#### (2) 助成金事業「はじめの一步部門」随時募集審査結果等について

- 事務局より審査結果等について説明
  - 1件「Home Education 学校へ行っていない子の会」より応募があり、採択された。
  - 現在は、チラシ作りに取り組んでいる。  
ただし、メンバーがなかなか集まることができず、通常の活動と助成金の準備で時間が足りないと言っていた。
  - 団体メンバーは子供のことで悩んだことがある人ばかり。今悩んでいる人と、今回の活動を通して一緒に歩いていくことができると考えている。
  - 団体の中でも、ある一部の人だけが活動を広めたいと考えるのではなく、メンバー全員が統一認識を持ってもらえたら。
  - 不登校を理解してほしいのか、それとも不登校の親とつながりたいのか。
  - 親の不安、子供の不安をなくしてあげたいという思いがある。
  - 蒲郡市は事業に後援を行う。この団体の代表者の方は、昨年実施したまちづくりセミナーの参加者。
- ・社会人になって、心に傷を負ってしまう若者が多い。傷を負わないようにするためには、地域との多世代交流が必要。
- ・子供が地域に直接出てきてくれればいいけど、それは難しい。学校が一番出てきやすい。そのため、大人が学校に関われないか模索している。
- ・小学校から、学校に行けない子が増えている。数で言えば中学校の方が多いが。
- ・小学校で夏休みに図書館を開放している。帰りの時間になって、帰宅を促しても帰りがらない生徒が多くなっている。親の共働きが増えて、家に帰っても誰もいない。
- ・12月8日(日)に市民会館大会議室で映画上映を実施する予定。入場無料。  
→地域が学校にどのように関わるができるかを知るには最適な映画。
- ・もう一度締め切りがあったが、申請はゼロであった。

### (3) 令和元年度採択事業の経過報告について

#### ○事務局より採択事業について経過報告

- ・つなが Ring! ヨガ 2 回目を実施
  - SNS を利用して、広報活動を展開。県外からの参加者も多数。
  - 地域の方にも浸透してほしい。
  - “ヨガ教室” という捉え方ではなく、“健康づくり” という新しいカテゴリ。
  - 竹島周辺を健康づくりの“聖地化”してくれているように感じる。
  - 「なにか変わりそうぞ」という雰囲気を出してくれている。
- ・外に向かったの発信力は抜群。「まちづくり」に落とし込む方法を模索中。
- ・参加者は、どんな人が多い？
  - 友達の友達という人も多いが、全く新しく来たという方もいる。
  - 団体メンバーと個人的につながって、参加に至っている人も多い。
  - 年齢層は広い。小さい子は、託児スペースのようなものを作り、まとめてみてくれる人がいた。
- ・公共的空間の利活用にも参加してもらえたらよい。

### (4) 令和 2 年度助成金事業募集について

#### ○事務局より助成金事業募集について説明

- ・はじめの一步部門審査について、審査員一人あたりの持ち点数を変更。(45→50点)
  - ⇒新しい項目に作る、PR 効果
  - 継続性、波及効果は重要な審査項目であると考えている。そこが増加するならよい。
  - ただし、団体側からすると広報したりするのが一番難しいところ。
  - 活動を知ってもらうということはすごく大事。それができていないと一人よがりになってしまう。
  - 評価が難しいポイントでもある。ある人には広範囲に届くが、全く届かないひともいてよいのか。
  - はじめの一步だと、まず自分の周りから目を向けて、知ってらもおうと思う。
    - 1 年目から、全市的にとはならない。また採点が難しいと思う。
  - 採点者側の考える「広報の仕方」にあてはめてしまうと厳しい。
  - ⇒ 事業の継続性、他への波及効果に含めるのはどうか。
  - 他への影響が少ないか。
  - 「ゆくゆくは広い範囲に PR して行ってほしい」というのが、申請書で分かるとよい。
- ・はじめの一步部門で人件費の支出は今までない。項目自体を削除してよいか。
  - メンバーではないけど、手伝ってくれた方に対する謝礼
  - 学校は、生徒を出すのはボランティアでさせるけど、ご飯だけお願いしますとなる。
- ・事業申請書に「事業目的」欄を追加。
  - 以前は、事業目的欄があった。しかし、現在は“団体の目的”はあっても、“事業の目的”はない。
  - 以前の書式は、記載項目が重複して何度も書かされ大変だった。

- “課題があって、それを自分たちはこうしたい” という流れがいいように思う。
- 課題があるとわかりやすい。どのようにアプローチするかを書けばよい。
- やりたい思いはたくさんあるが、課題がないと、最終的なゴールを見失うことがある。そこは注意したい。
- 課題解決型、価値創造型の2パターンある。やりながら、目標をみつけるのも現代の手法の一つ。最初から「課題」を見つけなくてもよいと思う。

#### (5) モデル事業（公共的空間の利活用）第3回実施に向けて

##### ○事務局よりモデル事業（公共的空間の利活用）について説明

- ・音を出してみる、キッズダンス、読み聞かせ、ニュースポーツなどを実施
  - ヨガともコラボしてみたい。
  - 地域がもっと出てきてほしい。
  - 毎回キーワードを決めて取り組んでいくとよい。
  - 場所を上手に使うことが目的なのか、単純に人が来て賑わえばいいのか。
    - 人をたくさん呼ぶのなら、外部の人でもできるが、アピタ前を上手に使うとなれば、地域の人の力が必要。
  - 子供を運営側に巻き込むと、親も協力してくれる。できるだけ、継続していける仕組みづくりが必要。
  - 子供の楽しみもあり、高齢者の居場所があるような多世代を巻き込めればいい。
  - お金儲けが目的という場所にはしたくない。
  - みんなでやりながら、少し物を売って、後の打ち上げが楽しくなるというイメージ。
  - 地元から“こんなことができるんだと知ってもらおう” が必要。
  - どれだけ地域の人を巻き込めるかだと思う。
  - 子供たちが参加者ではなく、主役となるようなものとよい。大人は裏からサポート。
  - 道路管轄している担当が伴走するのか、そういうことも含めて来年度考えてもよい。

#### (6) モデル事業（人材育成講座）実施について

##### ○事務局よりモデル事業

- ・団体育成講座、人材育成講座について
  - まちづくりの研修などがあっても、いきなりは参加しづらい。
    - 地域のことをみんなでおしゃべりしようという会をやってみたい。
  - 団体見学を受け入れるが、日ごろの活動を体験するというよりは、活動していてどんな思いでやっているのかなどは伝えられる。
  - 広報で自分たちの団体の活動見学を呼び掛けているが、参加者はいない。
  - 小さなことでも実際に実践していくことが大事。そのためには、元気な高齢者はたくさんいるので、手伝ってもらいながら自分に合うものをみつけてほしい。
  - 他の団体がどんな活動をしているのかが気になる。集まることが一番簡単だが、時間調整など難しい。情報発信源となる場所があると助かる。

- ・プランコンテストについて
  - 光ロープの案が実現し、ポートルースで飾られている。
- ・どすごいバスツアーについて
  - 小江まちカフェを訪問する予定。(11月16日・要申込)

### 3 その他

- ・事務局より次回日程を提案
  - 会長の予定により、後日連絡
  - 10月29日(火) 午後1時～ 601会議室 で仮決定